

子育て子育て支援検討委員会 資料

- 第1回（4月20日開催）の各委員の意見を、テーマごとに必要なワードを整理しまとめました。

内容や言葉が重複しているのは、発言が複数あったり議論となった部分となります。

- 第2回（5月24日開催予定）で皆様からの意見をお聞きしていくため、議論を整理してみました。

この資料をきっかけに、不足している状況や工夫できる支援、もっと議論を深めていくべき子育て子育て支援など長野市の子どもたちの姿と支援を話し合いしていきたいと考えています。

① 子どもたちの状態

1

- 発達障害への理解 ⇒ わかりづらい子どもたち
⇒ 理解が進んでいない
- 少子化で子どもが減る中で 配慮を要する子どもが多い
- 動きの多い子ども ⇒ 他の人への迷惑の心配
⇒ 一緒にいられない
⇒ 配慮しないと遊びが壊れてしまう

- 持っている力 （子どもの力を見ていく）
- 子どもが主体的に解決していく ⇒ 主体性を引き出していく
- つないでいく、連携 ⇒ レッテルを張られる 二次障害につながる

- 1歳半児健診 健診前後年齢の子どもの相談
- 行く場所が多ければ 子どもはのびのびと過ごせる
- 0歳児と小学生が同じ空間にいることの危険性

- コロナ禍での出産 ⇒ 家から出れない・遊び方がわからない
- 子育て状態が見えない ⇒ 他の人の子育てがみえない、子育てどうしたらよいのかわからない
- 家から出ることができない人は子育てをどうしているのか

- 若い夫婦 ⇒ 子育てがわからない ⇒ 親からの支援は、親も自分の生活があり支援が得られない
- 人の子育てを見て 安心感を得る ⇒ 子育ては人のまねをすること
- 子育てに我慢して 孤立する親
 - ⇒ 地域の中での理解
 - ⇒ 夫が理解していない
 - ⇒ 親族が理解していない

- 女性の社会参加が難しい （障害のある子の親）
 - ⇒ 子どもを送迎しなければならない
 - ⇒ 短時間でも働ける場所
 - ⇒ 親が働けない 働く環境が限られてくる ⇒ 学費の問題（通信制私立校等へ通う）

伴走 サポート

- 身近なところで いける所が安心
- 孤立した子育てへの伴走
- 子育てしているお母さんをサポートしてくれる仕組み、不安解消
- こども食堂へも行くことが難しい人への支援 ⇒ 精神疾患などの親 ⇒ 支援が届いているのかどうか
- コロナ禍で 他の親子の子育てが見えない 親子の交流ができない（交流する場が限られる）
参観日 懇談日 一人悩んでいる
地域とのつながり 家族の子育て力

専門性 ⇔ 保育で苦しまずに支援できる仕組み



多様性 ⇔ 専門職の現場のチームの重要性

保育園と共有できる場が必要

相 談

育つ道しるべ ⇔ 相談によってわかってくる

孤立 ⇔ 連携 ⇔ アプローチ

専門性のある人が、小さい時に見てくれる仕組み

- ・ チームで育てていく
- ・ 二次障害が少なくなる
- ・ 人のかかわりが工夫でき、少なくなる
- ・ 加配の増加を止められる

乳幼児期からの専門性

専門性で見立てができていない

乳幼児期から支援していく仕組み

未就園児からのネットワーク

専門性

- 10人に個別の支援はできない
 - ⇒ 保育の見直し
 - ⇒ クラスづくり . . . みんなにとっての良い保育
 - ⇒ おもしろく 楽しく伝えていく
 - ⇒ 視点を変える . . . みたてる 専門性

保 育

- インクルーシブ保育（学校⇒学びの場がわからない）
 - ⇒ 特性のある園児（児童）への配慮
 - ⇒ 多様性を受け入れる場になっていく
 - ⇒ 発達の相談員がいて、相談できる場 相談の入り口となる場

研 修

○ 研修体制

「連携できる」 「伝える側であること」 「集団づくり」 という視点

○ 施設に専門家がいてところをつくる

- ・ 最初に悩みを、取り掛かれるところ
- ・ つながり易い （ツール：ラインなどの利用も含めて考えていく）
- ・ そういう場所をつくってもらう
- ・ つなげていくもの